

市報 とす

サガン鳥栖J1昇格記念号



ご声援、ありがとうございます。

True champions in the hearts of all who love Sagami



Get! J1



サポーターと共につんだ勝利



昇格をかけた運命の一戦に勝利
11月27日 (アウェイ)
徳島 0-3 鳥栖



18年間の思い



鳥栖にプロサッカーチームが誕生して18年目

念願のJ1昇格決定



最終戦で見事にJ1昇格を決める
12月3日(ホーム)
鳥栖 2-2 熊本



歓喜の昇格パレード



2011シーズン

2011シーズンは、サガン鳥栖にとって「J1昇格」という歴史的な1年になりました。
J1昇格までの1年間の道りを振り返ります。

J1 昇格までの軌跡

12月3日の最終戦、満員のスタジアムに掲げられた「GO J1」の人文字

険しき道なり

4月～7月



試合後、厳しい表情の室選手

4月23日、約1カ月半ぶりにリーグ戦が再開しました。4月・5月は5勝1分1敗と好調なスタートを切り順位も2位まで浮上しましたが、6月は1勝2分2敗と勝ち点を伸ばすことができませんでした。

7月も5試合で1勝しかできず、一時は9位まで順位を下げ、シーズン中盤で厳しい状況に追い込まれました。

「やるべきことを継続する」

「10位以下というところには落ちていないので、悪くはないかなとも思っていますが、もっと上を目指してやっています。」

結果が出ないといろんな話が出ますが、下降しているところをいかに早くまた上昇気流に持っていかというのは大事だと思っています。

結果が悪いからトレーニングする、良いからやらないという訳ではないと思っています。目先の結果だけに一喜一憂せず、やるべきことを継続して積み重ねていきたいです」

(7月14日 尹晶煥監督インタビューより)



尹監督

今できることを

3月

3月5日に開幕したJリーグでしたが、同月11日に発生した東日本大震災の影響により、それ以降のJリーグ公式戦全試合の延期が決定しました。今後の試合日程などが不透明な中でも「今できることをクラブ・チームでやっいていこう」と、選手・スタッフが被災地支援に取り組みました。



募金活動で支援を呼びかける磯崎選手



九州のJリーグ5クラブが共同し、被災地支援活動を実施。3月19日のトレーニングマッチ対アッソ熊本戦で「がんばろう東日本! チカラをひとつに。」の横断幕が掲げられました

2011 サガン鳥栖 戦績

勝点69 (19勝12分7負)
得失点差+34 (得点68 失点34)

最終順位 **2位**

(J2全20チーム中、FC東京、サガン鳥栖、
コンサドーレ札幌の上位3チームがJ1昇格)

節	開催日	対戦チーム	H/A	結果
1	3/5	FC東京	A	●0-1
8	4/23	横浜FC	A	○3-1
9	4/30	東京ヴェルディ	H	○3-1
10	5/4	京都サンガ	A	△0-0
11	5/8	大分トリニータ	H	○2-1
12	5/15	湘南ベルマーレ	A	●0-1
13	5/21	コンサドーレ札幌	H	○1-0
14	5/28	水戸ホーリーホック	A	○5-0
15	6/4	徳島ヴォルティス	H	△1-1
16	6/12	ギラヴァンツ北九州	A	△0-0
17	6/19	愛媛FC	H	●1-2
18	6/25	FC岐阜	H	○2-0
2	6/29	栃木SC	H	●1-2
19	7/2	ロアッソ熊本	A	△0-0
20	7/10	カターレ富山	H	●0-1
21	7/16	栃木SC	A	△0-0
22	7/24	京都サンガ	H	○2-1
23	7/31	ザスパ草津	A	△0-0
3	8/6	ザスパ草津	H	●1-2
24	8/14	ガイナレ鳥取	H	○1-0
25	8/21	東京ヴェルディ	A	○2-0
26	8/28	水戸ホーリーホック	H	○2-1
4	9/4	ガイナレ鳥取	A	○6-3
27	9/10	ジェフユナイテッド千葉	A	△3-3
5	9/14	ファジアーノ岡山	H	○6-0
28	9/17	大分トリニータ	A	△0-0
29	9/25	湘南ベルマーレ	H	○2-0
30	10/2	ファジアーノ岡山	A	○4-2
31	10/16	コンサドーレ札幌	A	○1-0
6	10/19	カターレ富山	A	○3-0
32	10/23	FC東京	H	△0-0
7	10/26	ジェフユナイテッド千葉	H	○1-0
33	10/30	FC岐阜	A	△4-4
34	11/6	横浜FC	H	○2-0
35	11/12	愛媛FC	A	△2-2
36	11/20	ギラヴァンツ北九州	H	●2-3
37	11/27	徳島ヴォルティス	A	○3-0
38	12/3	ロアッソ熊本	H	△2-2

※節…東日本大震災の影響により一部日程変更があったため数字が入れ替わっています

※H/A…H=ホームゲーム、A=アウェイゲーム

※結果…○=サガン鳥栖勝ち、△=引き分け、●=サガン鳥栖負け

無敗記録の始まり

8月・9月



攻守の要として活躍した藤田選手

8月に入りけがから復帰した藤田直之選手やキムビョンスク選手、赤星拓選手らの活躍でチームの成績は上昇していきます。

8月14日のホームゲーム対鳥取戦の勝利を機に4連勝。9月にはアウェイで昇格争いをしてきた千葉に、2度のリードを許すも引き分けに持ち込む粘り強さを発揮します。



後半戦の活躍が光ったキムビョンスク選手

1万3566人の来場を記録した9月25日の対湘南戦に勝利。昇格圏内の暫定3位に浮上し、9月は無敗のまま、J1昇格をかけてリーグ終盤戦に突入しました。

試練、そして歓喜

10月~12月



北九州戦に敗れ座り込む金民友選手

10月は、札幌、FC東京と昇格を争う上位との直接対決に加え、リーグ戦中断の影響によるアウェイ3連戦など、まさに「勝負の月」。

昨シーズンまでここ一番で勝ちきれず昇格を逃してきたサガン鳥栖。エース豊田陽平選手の6試合6得点の活躍など、4勝2分の無敗で乗り切り、残り4試合で昇格圏内の2位を堅守しました。

11月12日のアウェイ対愛媛戦を終えて16戦無敗、次の試合に勝てばJ1昇格確実かという状況で迎えたホーム対北九州戦、試練が待っていました。点の奪い合いになった試合は、終盤に失点し痛恨の逆転負け。この時点で勝ち点で並んだ3位徳島とのアウェイ直接対決にJ1昇格の夢は持ち越されました。

両チームともにJ1昇格をかけた運命の一戦は試合序盤に金民友選手のゴールや、ゴールキーパー赤星拓選手がペナルティキックを止める活躍などで3対0の勝利、自力でJ1昇格を決定的なものにしました。

そして12月3日、スタジアムの入場者数記録を塗り替える2万2532人の大観衆が見つめる中、「J1昇格」という歴史的な瞬間が訪れ、2011シーズンは幕を閉じました。



最終戦後のセレモニーのようす

鳥栖にプロサッカーチームが誕生したのは、今から17年以上前までさかのぼります。J1昇格を果たしたサガン鳥栖の「原点」となるプロサッカーチーム誘致の歴史を紹介します。

原点

1991年～

プロサッカーチーム誕生

平成7年 鳥栖フューチャーズ対福岡ブルックス

フューチャーズ誘致

チームの原点である「PJMフューチャーズ」は、昭和62年に静岡県浜松市で創部。平成5年に発足したJリーグ入りを目指し、本拠地探しを行っていました。それを知った佐賀県サッカー協会が誘致活動を展開。そこで候補地として挙がったのが鳥栖市でした。交通の要衝で近隣地域からの観客動員、Jリーグ加入の条件であるスタジアム建設の用地確保が見込まれることが理由でした。

平成4年6月、プロサッカーチームの県内誘致を目指し佐賀県で「プロサッカーフランチャイズ誘致委員会」が、鳥栖市でも「プロサッカーホームタウン誘致鳥栖委員会」が設立され、本格的な誘致活動がスタートしました。

苦難のスタジアム建設

鳥栖市がスタジアム建設用地として国鉄ヤード（鉄

道の操車場）跡地を購入して提供し、建設費は大手企業が出資することになっていました。しかし、同企業が全面撤退を表明。約60億円の建設費の工面が暗礁に乗り上げ、誘致活動に大きな影響を及ぼしました。

市長の決断

スタジアム建設はJリーグ加盟の絶対条件。新たなスポンサー探しも難航し、Jリーグ準会員加盟申請の期限が迫る中、鳥栖市の決断が求められました。

平成5年8月、当時の山下英雄市長が記者会見で、ホームタウン受け入れと、市が主体となってスタジアム建設に取り組むことを表明。誘致活動は再び動き出しました。

平成6年3月にチームは本拠地を鳥栖市に移転。プロサッカーチームの歴史が始まり、スタジアムは約2年の歳月と約97億円（用地費含む）をかけ、平成8年6月に完成しました。

インタビュー

「誘致を決断」元鳥栖市長 山下英雄さん

仕事でヨーロッパを訪れたとき、街中からサポーターの歓声が聞こえ、サッカーグッズが街に溢れていました。

最初にチーム誘致の話を聞いたとき、その時の記憶がよみがえり、サッカーは未来のまちづくりや未来を担う子どもたちに、きっと良い影響を与えてくれると感じました。



当時の思いを語る山下元市長



J1昇格を決めた試合でサガン鳥栖の得点を喜ぶ山下元市長

鳥栖市は交通の要衝という地の利を生かし、必ずこれから財政的にも躍進できると見込んで、ホームタウン誘致とスタジアム建設の決断をしました。

（平成9年に）クラブが解散したときは辛かったですね。クラブを誘致して守ることができず、多くの皆様に迷惑をかけて申し訳ない気持ちでいっぱいでした。そんな時、妻から「選手の皆さんはもっと辛いよ」と言われたことを今でも覚えています。

（存続が決まり）チームやスタジアムを守るために必死で頑張ってくれた人がたくさんいて、本当に感謝しています。

J1昇格を決めた試合は数年ぶりにスタジアムで観戦しました。満員のスタジアムの雰囲気は、まさに感慨無量でした。

「J1」という土俵には多くの人の真心が詰まっています。その中で選手の皆さんには、自信を持って頑張ってもらいたいですね。

危機

1997年～

この街で育つチームは、これまで何度も消滅の危機にさらされてきました。

しかしチームを愛するすべての人たちの強い絆で、この街にプロサッカーチームの火が灯し続けられてきました。

決して忘れることができない歴史を振り返ります。

クラブ解散、チーム消滅の危機

クラブの解散などを伝えた新聞報道の数々

スポンサーの撤退

平成6年8月、クラブはJリーグ準会員入りが正式に承認され、チーム名も「鳥栖フューチャーズ」に変更し、夢の実現に向け新たなスタートを切りました。

カメルーン代表の主将、ステファン・タタウ選手らを獲得するなど積極的な補強でJリーグ昇格を目指すものの、3年連続でJリーグ昇格に失敗。

そして、チームに危機が訪れます。

平成8年11月、主力スポンサーが撤退を発表。その後チームの運営を行っていた佐賀スポーツクラブの解散も決定しました。運営会社の解散は平成5年のJリーグ発足以来、初めてのことです。日本のプロサッカーの在り方さえも揺るがす事態に発展しました。

5万人の署名活動

運営会社の解散が決ま



サポーターらによる署名活動がチームを存続へ導きました(JR鳥栖駅前)

り、チームの存続自体が危ぶまれる中、チームの存続を信じるサポーターを中心に千人を超える大決起集会が行われ、5万人以上の署名が集められます。

「地元」に根ざしたクラブ。5万人以上の署名がなかったらこういう判断をしたかどうか。その後のナビスコカップへの出場を「超法規的措置」として認めた当時の川淵三郎Jリーグチエアマンは、サポーターの熱意が存続へ結びついたことを明かしました。それは、Jリーグが目指す「地域密着」の理念に対する威信をかけた決断でもありません。

した。

チーム名を変更することやJリーグ準会員の資格を失うことなどが条件となりましたが、サポーターの熱意がJリーグを動かし、チームは存続し、残った8人の選手とともに、市民チームとして新たなスタートを切りました。

「サガン鳥栖」発足

平成9年2月、佐賀県サッカー協会や鳥栖市サッカー協会など6団体が運営するチーム「サガン鳥栖」が発足しました。チーム名には長い年月をかけて砂粒が固まって「砂岩」になるように、小さな力を集結して立ち向かおう、また「佐賀のトス」として県民の力を結集し地域に根ざしたチームを目指そうという意味が込められました。

平成10年9月、翌年から移行するJ2リーグに条件付きながらも入会が認められ、J2発足時の10クラブの一つとなりました。

J2に所属後、チームは2000年シーズンの6位など健闘もあったものの、経営面ではJ2の中でも最小規模の年間予算での運営を強いられ、下位に低迷する時期が続きました。観客動員数も伸び悩み、累積赤字は膨らんでいきました。

繰り返される危機

年間勝利3勝という当時のJ2ワースト記録を更新した2003年のシーズン終了後に2度目の危機が訪れます。

「このままでは鳥栖はつぶれる」。経営が悪化し、経営体制も不透明なクラブに対し、Jリーグから経営改善が図られなければJリーグからの退会処分もあり得るとする、厳しい「最後通告」が突きつけられました。一時はクラブ解散という最悪の事態も懸念されましたが、社長の続投と松本育夫監督の就任が決定。Jリーグの理解を得て再生への一歩を踏み出しました。

クラブ・チームの歴史を掲載するに当たり、チームの誘致にも尽力され、鳥栖市サッカー協会初代理事長を務められた井上憲弘さんに多数の資料提供をしていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

再生

2004年～

サガン鳥栖は消滅の危機を乗り越え、再生への道を歩んでいきます。チーム再生への分岐点とも言える2004年シーズンからこれまでを振り返ります。

新生・サガン鳥栖

指揮を執る松本育夫監督

チームの再建

平成15年、Jリーグからの要請でサガン鳥栖の再建を託され、監督に就任した松本育夫さん。「チームを立て直す」。監督就任の会見で力強く決意を語りました。

監督就任は12月。補強する間もなく、1年目の2004年シーズンは最下位脱出。2年目は選手の半数を入れ替え8位、3年目には新居辰基選手や尹晶煥選手などの活躍で4位と大躍進。J1昇格まであと一歩のところへ導き、3年でチームを立て直しました。



新居辰基選手（写真右）のゴールを祝福する尹晶煥選手。この2人から数多くのゴールが生まれた

2007年シーズンから、松本さんはクラブの強化部門を担うGMに就任。

ヘッドコーチを務めていた岸野靖之さんが3シーズンに渡り監督としてチームを指揮しました。目指すサッカースタイルが確立される中、チームは着実に力をつけ、夢のJ1を目指す戦いが続きました。

2010年シーズンは再び松本さんが監督に就任するも、実質的な指揮は尹晶煥ヘッドコーチが務めました。そして2011年シーズン、尹監督にJ1昇格の夢が託されました。

サガン・ドリームス誕生

一方、経営面では2004年のシーズン中に再びクラブの経営問題が浮き彫りになります。Jリーグは経営難の解消に向けた体制の刷新と新たなスポンサー探しを要請。場合によっては退会勧告や除名処分も検討

するという非常に厳しいものでした。

そんな中、佐賀県が東京で会社を運営する佐賀県出身の井川幸広さん（現・（株）サガン・ドリームス会長）にクラブの経営を要請。平成17年1月、井川さんを社長とする運営会社「（株）サガン・ドリームス」にクラブが譲渡され、新体制に移行しました。



最終戦の試合前にサポーターに笑顔であいさつをする井川会長

新体制のもと、チームとクラブ、サポーターが一つになった新生・サガン鳥栖の新たな挑戦が始まりました。

「本当によかった」



「今シーズンは11人でやるサッカーをまとめることができたことが一番の強み。昨シーズンは、尹監督に指揮を執ってもらって、実質的には2年目だったので、良いタイミングで預けることができたかなと思います。

長年クラブに関わってきただけに、うれしい。本当によかった」（昇格が決定した試合後の松本育夫さんのコメント）

18年の歩み

年 月	主な経過
92年6月	プロサッカーフランチイズ誘致委員会設立、プロサッカーホームタウン誘致鳥栖委員会設立
93年5月	Jリーグ開幕
93年8月	鳥栖市がスタジアム建設とホームタウン受け入れを正式表明
94年3月	PJMフューチャーズが本拠地を静岡県浜松市から鳥栖市に移転
94年8月	Jリーグ準会員加盟。翌年チーム名を「鳥栖フューチャーズ」に変更
96年6月	鳥栖スタジアム落成。こけら落としの対本田技研戦は入場者数2万686人を記録
96年10月	JFLを4位で終え3年連続でJリーグ昇格を逃す
96年11月	主力スポンサーが撤退を発表
97年1月	チームの運営会社の解散が決定
同	存続を求めるサポーターが5万人の署名をJリーグに提出
97年2月	新チーム「サガン鳥栖」発足
98年9月	Jリーグ2部への加盟を承認され翌3月からJ2リーグに参戦
03年11月	年間3勝の最下位でシーズン終了
03年12月	Jリーグが新経営陣候補に経営改善を要求
同	チーム存続を求めサポーターが署名活動
同	松本育夫氏の監督就任が決定
05年1月	サガン鳥栖、井川幸広氏が設立する新運営会社「(株)サガン・ドリームス」への譲渡が決定
11年1月	尹晶煥ヘッドコーチが監督に就任
11年12月	鳥栖にプロサッカーチームが誕生して18年目、念願のJ1昇格決定

18年間の戦績

チーム名	シーズン	所属	順位	監督名
PJM	94年	JFL	4位	桑原隆/バチスタ
鳥栖F	95年	JFL	4位	チャプリノビッチ/張外龍
	96年	JFL	4位	アグレスタ/バチスタ
	97年	JFL	11位	楚輪博
	98年	JFL	8位	楚輪博
	99年	J2	8位	楚輪博
サガン鳥栖	00年	J2	6位	高祖和弘
	01年	J2	10位	高祖和弘
	02年	J2	9位	副島博志
	03年	J2	12位	千疋美德
	04年	J2	11位	松本育夫
	05年	J2	8位	松本育夫
	06年	J2	4位	松本育夫
	07年	J2	8位	岸野靖之
	08年	J2	6位	岸野靖之
	09年	J2	5位	岸野靖之
	10年	J2	9位	松本育夫
11年	J2	2位	尹晶煥	

※PJM…PJMフューチャーズ
※鳥栖F…鳥栖フューチャーズ

誇り

たくさんの選手たちのプレーが、私たちに大きな夢と感動を与えてくれました。一部ではありますが、チームの歴史の中で、特に印象的な選手たちを紹介します。

歴史を支えた選手たち



DF ステファン・タタウ

1995年～1996年
元カメルーン代表で主将として三度のW杯出場。アフリカの選手として日本で初めてプロ契約を結び、守備の要としてチームを牽引。



GK 松永成立 (まつなが しがたつ)

1995年～1996年
正確な技術と守備範囲の広さで日本代表の守護神として活躍。ドーナの悲劇でもゴールマウスを守った。95年に当時Jリーグ横浜マリノスから移籍。96年は主将を務め若いチームを引っ張った。



GK 高嵯理貴 (たかさきりき)

1993年～2000年
チーム発足時から所属。97年以降不動の「守護神」としてゴールマウスを守る。「リッキー」の愛称で親しまれ、名実ともにチームの顔として活躍。2011シーズンGKコーチとして鳥栖に復帰。



MF 森保洋 (もりやす ひろし)

1994年～2000年
豊富な運動量で中盤を支えたボランチ。当時のPJMフューチャーズに入団。鳥栖フューチャーズ、サガン鳥栖とチームの歴史とともに歩んできた選手。現サガン鳥栖U-18監督。



DF 川前力也 (かわまえりきや)

1998年～2003年
長きに渡り鳥栖の最終ラインを統率した守備の要。精神的支柱としてもチームを牽引した。現サガン鳥栖U-15唐津監督。

FW 小石龍臣 (こいし たつおみ)

2000年～2005年
鳥栖市出身選手。スピードを生かした切れ味鋭いドリブルや素早い前線への飛び出しでチャンスを演出した。



MF 高橋義希 (たかはしよしき)

2004年～2009年
正確な技術と豊富な運動量で1年目から活躍。弱冠20歳でキャプテンを任せられ、「ミスターサガン」として移籍後もサポーターに愛されている。

FW 豊田陽平 (とよだ ようへい)

2010年～
高さ・強さ・スピードを兼ね備えた大型ストライカー。2011シーズン、23得点でクラブ史上初となるJ2得点王を獲得し、チームのJ1昇格に大きく貢献した。

FW ハーフナー・マイク

2009年
シーズン途中に鳥栖へ移籍。15得点を挙げて才能が開花。2011年に日本代表に選出されると、10月に代表初ゴールを含む2得点を挙げ大ブレイク。世界が目する選手へと成長した。



もりさき かずこ

■森崎和子さん (写真左)

私にも何かお手伝いできることがあればと思ってアシストに参加しました。サガン鳥栖は「まちの宝」。この宝物を地域みんなで大事にしていきたいと思います。

試合運営をサポートする
ボランティア組織
アシストクラブの皆さん

さいとう やとみ

■齋藤八十三さん (写真右)

若い人との交流や、選手も身近に感じて楽しみにアシストに参加しています。昇格が決まって家族から私がおめでとうと言われました。J1に定着できる力をつけてほしいです。

たなかまさこ

■田中真砂子さん (写真中央)

子どもがサッカー選手としていろいろな方にお世話になって、自分も何かその恩返しがしたくてアシストを続けています。J1昇格、本当に嬉しいです。



夢結束

それぞれの思い

サガン鳥栖をさまざまな角度から応援(支援)する人たちの「思い」を紹介します。



地元出身選手として活躍
妙昭寺・副任職
こいし たつおみ
小石龍臣さん

プロの試合がこんなに間近で見られる。自分がサガン鳥栖の選手としてプレーしていた時は、感じるができなかった喜びを、今すごく感じています。

J1昇格は、本当に嬉しいです。でも同時に試合に出られなかった選手やチームを去る選手たちの気持ちを考えてしまいます。

サポーターの皆さん、私たちをJ1へ導いてくれたこのメンバーを忘れないでください。そして来季、J1で勝てない試合が続くかもしれません。それでも選手たちを信じて応援してほしい。温かい目で励ましてほしい。この小さな街に根付くチームの魅力がそこにあるのだと思います。

サポーター団体
SAGANTINO Nord・代表
いたやま たかひろ
板山高大さん



選手が自宅の前に住んでいたことがきっかけで、フューチャーズ時代からずっと応援を続けています。

何度もクラブ解散の危機がありましたが、そういう危機を乗り越えてきたからこそ「どんな苦しい状況でも応援し続ける」と誇りを持って言えるサガン鳥栖の応援があると思います。

「夢結束」、ぜひ続けていきたいですね。次のステージへ向かってクラブ、チーム、サポーターが「結束」していくことが、これから本当に大事になってくると思います。J1では、観客も増えると思いますが、より多くのサポーターを巻き込むような応援を心掛けていきます。

誘致の話を初めて聞いたとき、こんなに小さな街でプロサッカーなんて夢の話じゃないかと思いましたが、主人は「これから伸びていく鳥栖に必ずプラスになる」と、青年会議所の皆さんと一緒に積極的に誘致活動に取り組んでいました。

クラブが解散してしまった時、主人はすごく責任を感じて、「もう表に出て支援はできないけど、裏からチームを支えていきたい」と話していました。

主人が病気で倒れた時、誘致の時のことを覚えていてくれた高嵯理貴GKコーチが「これからも見守ってください」と書いたサインを送ってくれました。

主人はJ1昇格を目にすることなく8月にこの世を去りましたが、天国で喜んでいると思いますし、重い肩の荷を下してくれたのではないかと思います。

「お父さん、よかったね。安心できたね」。サガンの活躍を天国で見守ってくれていると思います。

誘致活動に尽力した元鳥栖市青年
会議所理事長・権藤祐介さんの妻
ごんどう たえこ
権藤妙子さん



感謝

2011シーズン、サガン鳥栖に「J1昇格」という新たな歴史が刻まれ、それを成し遂げてくれたメンバーがいます。

しかし、同時に今季限りでチームを離れる選手・スタッフもいます。歴史を変えてくれた2011年シーズンのメンバーに感謝し、その一人一人の名前をここに記します。

2011 シーズン 選手・スタッフ

(敬省略)

ポジション 背番号 選手名

ポジション 背番号 選手名

GK	1	赤星 拓	MF	24	柳澤 隼
DF	2	木谷 公亮	MF	25	早坂 良太
DF	3	磯崎 敬太	FW	26	岡田 翔平
DF	4	田中 輝和	MF	27	キム ビョンスク
DF	5	金 明輝	GK	28	月成 大輝
MF	6	岡本 知剛	MF	29	藤 翔伍
MF	7	山瀬 幸宏	MF	30	黒木 晃平
MF	8	永田 亮太	DF	31	黒木 恭平
FW	9	豊田 陽平			
MF	10	金 民友			
FW	11	新居 辰基			
GK	12	奥田 達朗			
DF	13	浦田 延尚			
MF	14	藤田 直之			
DF	15	丹羽 竜平			
MF	16	國吉 貴博			
FW	18	野田 隆之介			
MF	19	米田 兼一郎			
DF	20	呂 成海			
GK	21	室 拓哉			
FW	22	池田 圭			
DF	23	守田 創			

役職

スタッフ名

監督	尹 晶煥
コーチ	吉田 恵
コーチ	金 熙虎
GK コーチ	高崙 理貴
フィジカルコーチ	菊池 忍
トレーナー	佐々木 康之
トレーナー	木下 陽一郎
トレーナー	鶴岡 哲生
通訳	金正訓
スカウト	牛島 真諭
主務	仲 康宏
副務	築地原 義人



DF 金 明輝



DF 田中 輝和



DF 浦田 延尚



MF 米田 兼一郎



MF 山瀬 幸宏

MF 永田 亮太



MF 柳澤 隼



トレーナー 木下 陽一郎

「新居ゴール」 忘れない

新居辰基 選手 現役引退を発表

2005年から2シーズン、サガン鳥栖に所属し、2年間でリーグ戦40ゴールを記録。新居選手が決めるゴールは、いつもサポーターに強烈なインパクトとゴールの魅力を与えてくれました。そして今シーズン再びサガン鳥栖に加入。惜しまれつつも、今シーズン限りでの現役引退を発表しました。

「サガン鳥栖でユニフォームを脱ぐことができ本当に幸せだと感じています」



いざ J1!!

約20年前のプロサッカーチーム誘致に始まり、クラブはこれまで長い時間、いくつもの苦難を乗り越えてきました。

この街にプロサッカーチームが誕生して18年目の2011年シーズン、サガン鳥栖が見事にJ1昇格を果たしました。長きに渡る皆さんの温かいご声援、本当にありがとうございました。

鳥栖市は、市民、佐賀県民、筑後地区の皆さんをはじめ、応援してくださったすべての皆さんへ感謝の気持ちを込めて「市報とすサガン鳥栖J1昇格記念号」を作成しました。

これからも「佐賀・筑後地区の誇り」であるサガン鳥栖と一緒に応援していきましょう。

そしてサガン鳥栖の新たな歴史が始まる2012年シーズン、ここベストアメニティスタジアムで皆様のご来場を心よりお待ちしております。

 **鳥栖市**

